

# 第15回 ICA大会における ICA/SPA<sup>(1)</sup> 専門家団体部会参加報告

全国歴史資料保存利用機関連絡協議会  
副会長 小川千代子 (国際資料研究所)

第15回 ICA大会は2004年8月23日から28日まで、ウィーンで開催された。このうち筆者が全史料協の代表として運営委員を務める ICA 専門家団体部会の活動等について報告する。

ICA/SPAにかかわるプログラムは、今大会中運営委員会2回、総会1回、研究発表2回があった。運営委員会は、ICA/SPA全体の活動にかかわる協議を行う。協議は原則非公開。ICA/SPAのメンバーが顔をそろえる4年に一度の機会である。ここでは次期運営委員会メンバーの選出や、各国からの活動状況の報告が行われる。今回は23団体の代表が集まった。

## 8月23日運営委員会

これまで4年間の活動全体のまとめを行い、午後の総会への報告事項に備える事務打ち合わせが行われた。また、教育研修部会幹部が合流し、今後の活動の協力体制の検討が行われた。

## 8月23日午後のSPA総会

23カ国の専門家団体代表が集まり、SPAの活動についての報告を受け了承し、また各国の活動状況等についての報告が行われた。

## 8月27日の運営委員会

新メンバーの顔合わせ、新会長ら役員と委員の挨拶、それに次回2005年春の運営委員会開催場所についてスペイン・カタルニアの代表から招致提案があり了承された。次回は2005年4月10～16日、スペイン・カタルニアのギロナで開催予定。新運営委員会メンバーは15名で構成。

## ICA大会の研究発表

8月25日、8月26日にSPAの活動である〔アーカイブの団結〕の成果について、及びSPAの構成員である各国専門家団体の活動状況について報告するセッションがあった。

8月26日の〔アーカイブの団結〕成果発表では、カナダのナンシー・マレリによるアーカイブをめぐる国際協力プロジェクトのデータベース構築についての発表が行われ、関心を呼んだ。

8月25日各国専門家団体のイニシアチブの現状報告を集約したセッションでは、カナダ、オーストラリア、米国、日本の関係団体の現状報告が行われた。日本は全史料協の既存英文パンフレットに基づき小川が報告した。これに対し、日本の現状、とりわけ記録管理学会の現状について関心が集まり、他の英語圏各国との比較検討の議論に発展した。

## 参考1 2004～2008期SPA運営委員会 メンバー

ディディエ・グランジュ(会長、スイス)、アンリ・ズバル(副会長、フランス)、ジル・レサージュ(事務局、カナダ)、小川千代子(日本)、トルディ・ハスカンプ・ピーターソン(USA)、ローラ・ガブリエラ・サラザール(メキシコ)、ホアン・ポアダス・イ・ラセット(スペイン・カタルニア)、ワルデマル・ショラジチェウスキ(ポーランド)、ブレント・フレデリクソン(スウェーデン)、ミハル・ヘンキン(イスラエル)、ピーター・ハーマン(ARMA)、C.G.M.ノルダム(オランダ)、コンチェッタ・ダミアニ(イタリア)、コリン・マケイン(オーストラリア)、パトリシア・スリーマン(英国)

参考2 8月23日午後開催のICA大会  
SPA専門家団体部会総会での  
各国報告

**Canadaカナダ**

ICA北米地域支部が設立された。モン트리オールで、カナダアーキビスト協会及びケベックアーキビスト協会の合同会議が開催された。著作権法改定にあたり陳情を行った。

**Franceフランス**

フランスアーキビスト協会では100周年記念で数多くの出版物を発行した。アンリ・ズバルは、ヨーロッパの専門家団体連盟設立の検討が行われていることを報告した。

**Catalunya and ASFカタルニア**

**アーキビスト協会(スペイン)**

カタルニア・アーキビスト協会は創立20周年を迎えている。バルセロナ大学に保存記録学科が設立された。スペイン内戦中に失われたカタルニアの文書返還作業がカタルニア政府との共同で進められている。アーキビスト協会は会議を2回開催し、諸外国との関係を強めた。

**Polandポーランド**

会員は1,400名、支部は22ある。第4回大会は2年前に開催された。機関誌は季刊で発行している。

**SAAアメリカアーキビスト協会**

今大会に展示ブースを出展しているので、ぜひ見学してほしい。SAAでは独自の倫理綱領の見直し、米大陸原住民の権利とアーカイブの返還に関する法令への強い影響、記述標準、電子記録、米国議会が現在審査中の新国立公文書館長指名問題などに取り組んでいる。

**Netherlandsオランダ**

DIVAと協力して5月に2日日程の会議を開催した。

**Academy of Certified Archivists**

**米国公認アーキビストアカデミー**

アーキビストアカデミーについても、SAAのブースに資料がある。アーキビストの公認をめぐる諸問題について継続して取り組んで

いる。

**Germanyドイツ**

ドイツアーキビスト協会のメンバーは2,200名。今年はICA大会があるので年次大会を開催しない。9月にオープンデーを開催、2005年の大会は、アーカイブとナチスをテーマにシュツットガルトで開催。

**DIVA**

DIVAは1999年設立の記録管理とアーカイブ関係団体及び機関の参加の団体である。メンバー130名程度。専門知識の向上とアーカイブの地位向上を目的とする。文化省から財政支援を得てプロジェクトに取り組む。

**Austriaオーストリア**

オーストリア・アーキビスト協会は大学の学科と密接に連携して大学院修士資格付与を目指している。カリキュラム内容は同じ。

**Greeceギリシア**

ギリシアでは倫理綱領、ISAD(G)、ISAAR(CPF)の翻訳に取り組んでいる。オリンピックアーカイブ会議が昨年開催された。オーストリアからの協力を得た。ぜひ、ウィーン市文書館の展示を見ていただきたい。

**Mexicoメキシコ**

大学のアーカイブ学科向きカリキュラムをメキシコ市庁が協力開発した。セミナーの開催に当たっては、スペインやイタリアからの応援を得ることが多い。国のアーカイブ法は現在検討中。民法、刑法の改定が必要となった。特にこれは市町村レベルで記録を保護するために必要とされる。自然災害も記録の脅威である。

**Switzerlandスイス**

スイス・アーキビスト協会は会員500。アーキビスト認定制度ができて、すでに就職した認定者25名がいる。ベルンに修士課程ができる可能性がある。国立電子データセンターに対してアーキビスト協会が働きかけを行っている。市町村アーカイブ・セクションでは6月に30人程度が集まり、分類体系について話し合った。機関誌の発行は準備中。

**ARMA International**

ARMAはメンバー10,000人、ウェブサイトがある。サーバネス・オクスレー法の影響、2005、2006年の会議などに取り組む。

**Japan日本**

文書管理に関する新法の議論が始まっている。全史料協の会員約500、このほかにアーカイブ、記録管理に関連するいくつかの団体がある。

**Belgiumベルギー**

ベルギー協会は図書館司書、アーキビスト、歴史家及び機関会員で構成する。会議の開催、出版物の発行を行う。

**Denmark and Finland****デンマークとフィンランド**

デンマークとフィンランドは協力して事業を行う。昨年は倫理に関する講演会を行い、この5月には、アーカイブの論理についての講演会を開催した。10月にはスカンジナビア全体でアーカイブ・デーを開催の予定。

**Israelイスラエル**

イスラエルには団体が3つあり、統合を目指している。現状では、年刊の機関誌、季刊のニューズレター、半年に一度“リフレクション”などの出版物を発行、研修コースには、短時間の講演会や認定コースがある。専門家だけでなく小規模自治体などでアーカイブを取り扱う人のための研修である。簡単なリストを作成し、アーキビストに倫理綱領を紹介している。

ミケル・ヘンキンは、アーカイブの国際修士資格がよいのではないかと提案した。

**Flandersフランダース(ベルギー)**

フランダースでは、図書館司書、ドキュメンタリスト、アーキビストが参加する団体があり、そこで市町村アーカイブと電子記録の問題に取り組んでいる。

**Hungaryハンガリー**

ハンガリーを中心とした中央ヨーロッパ各国専門家団体のセッションを火曜日に開催するので、参加していただきたい。

**UK英国**

国のアーカイブ法を現在検討中。情報公開

法が2005年1月1日から施行され、これが記録管理者とアーキビストに大きく影響を与えるだろう。博物館、図書館、公文書館理事会は、教育に関するタスクフォース報告書を作成中。アーキビスト協会の行動規範は見直しが行われている。

**Australiaオーストラリア**

保存記録と記録教育関係者フォーラムが2003年に開催された。これはオーストラリア記録管理協会とオーストラリアアーキビスト協会が共同で教育問題に取り組んできた成果である。人文社会科学の頂上団体が創設され、これにアーキビスト協会が関与した。今大会ではオーストラリアアーキビスト協会が展示場にブースを開いているので、立ち寄って近刊「Keeping Archives 3」のパンフレット等入手されたい。

**Italyイタリア**

イタリア政府の、アーカイブに対する劇的予算削減について概略報告。イザベラ・オレフィチェは、各専門家団体に対し、イタリアのアーカイブに働く仲間に対する応援を呼びかけ、また、イタリアアーキビスト協会が現状についてまとめた特別号があるので入手されたい旨を述べた。

注(1)

SPAは英語ではSection of Records Management And Archival Professional Associations、世界各国の記録管理とアーカイブに関する各国全国団体69団体が加盟している。詳細はICAホームページ <http://www.ica.org/body.php?pbodycode=SPA&language=eng> 参照

※お詫び

小川千代子氏の参加報告には資料も添付されていますが、紙面の都合により、資料部分は次号(第71号)掲載とさせていただきます。

(全史料協編集・出版委員会事務局)